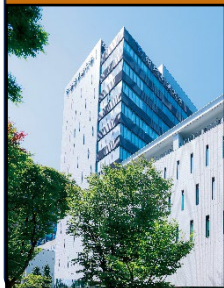


医療と生活をつなぐ対話型コミュニティ「健康茶房」の実践研究

—産官学民連携による地域包括ケアモデルの構築—



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

小原 道子 Obara Michiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード: 地域包括ケアシステム・健康茶房・産官学民連携・孤独・孤立対策・セルフメディケーション・地域健康支援

研究の概要

我が国では高齢化や社会構造の変化に伴い、医療・介護・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの深化が求められている。

一方で、孤独・孤立や健康不安、服薬困難などの生活課題は、医療機関受診以前の段階で生じることが多く、既存の制度のみでは把握されにくい。

本研究は、産官学民が連携して展開する地域交流の場を学内及び学外で「健康茶房」として開催している。

「健康茶房」は地域住民が気軽に立ち寄れる環境の中で健康不安や生活課題を早期に把握し、医療・介護・福祉等の支援へつなぐ実践フィールドとし、地域支援モデルの構築と検証を目的とする。

薬剤師・薬学生による健康相談や服薬支援を通じて、地域包括ケアの実践に資する新たな地域支援モデルとしての社会実装を目指すとともに、地域連携の仕組みや薬学生教育プログラムの体系化を図る。

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

○実学へのつながり・社会的意義

健康茶房は、地域住民が気軽に集える交流の場を通じて健康不安や生活課題を早期に把握し、医療・介護・福祉等の専門的支援へとつなぐ地域支援モデルである。

本研究では、その運営方法や評価指標を整理し、地域包括ケアシステムの実践に資する地域健康支援モデルの確立を目指す。また、薬学生の地域活動教育の実践フィールドとして活用できる点にも特徴がある。

○産業界・自治体へのアピールポイント

地域住民との継続的な交流を通じて健康課題や生活ニーズを把握できる実践的研究であり、自治体の健康づくり施策や地域包括ケア政策への応用が期待される。企業にとっても、地域貢献活動の実践やヘルスケア製品・サービス開発の実証フィールドとして活用可能である。

○協力可能事項

- ・地域住民を対象とした健康、生活実態調査
- ・地域交流型健康支援活動の企画、評価
- ・薬学生の地域活動教育プログラムの開発
- ・ヘルスケア製品、サービスの実証研究

○協力希望事項

- ・自治体との連携による地域健康支援活動の実施
- ・企業との共同研究によるヘルスケア製品開発
- ・地域薬局、医療機関との連携による実践研究フィールドの構築